

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370682

研究課題名(和文) 認知言語学的手法を応用したオンライン英語多義語辞書の開発

研究課題名(英文) Development of an Online Dictionary of English Polysemy from a Cognitive Linguistic Perspective

研究代表者

辻本 智子 (Tsujimoto, Tomoko)

大阪工業大学・工学部・准教授

研究者番号：30288758

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、認知言語学手法を応用し、とくに前置詞に焦点をあてたオンライン英語多義語辞書を作成した。認知言語学の成果を中学生にもわかりやすく提示するため専門用語は一切使用せず、かわりに各語の記述にアニメーションを活用した。アニメーションの中にも認知言語学的成果を活用する工夫を施し、多義語の一見バラバラに見える複数の語義に一貫したつながりがあることを包括的に示した。また、生徒用と教師用の2つのウェブサイトを用意し、教師用には生徒用の情報に加えて、認知言語学的な背景を解説するページを設けた。

研究成果の概要(英文)：In this project, we have made an online dictionary of English polysemy mainly designed for junior high school students. Research findings in cognitive linguistics are widely utilized to describe each word, but no technical term is used in the dictionary. Instead we created short animations for each meaning of a polysemous word for easier understanding of the link between them.

研究分野：認知言語学的多義語分析またその英語教育への応用

キーワード：多義語 前置詞 認知言語学 意味ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

本研究の先行研究として『英語多義ネットワーク辞典』(2007 小学館)がある。この辞典は認知言語学の成果を大胆に取り入れ、メタファー・メトニミー・シネクドキ という概念に基き、多義語の意義展開をネットワークとして捉えなおした画期的な辞典である。しかし、最先端の研究成果を取り入れたため、必然的に内容は専門家向けとなり、残念ながら教育現場で効果的に使用できるという性質のものではなかった。

たとえば、メタファー・メトニミー・シネクドキ という概念そのものが、認知言語学の分野では活発な議論の対象となっており、その定義を理解するだけでも専門家以外には難しい。さらに『英語多義ネットワーク辞典』では、メタファーの下位類として3種類、メトニミーの下位類として35種類、シネクドキ の下位類として2種類の分類を規定している。たしかに学問的には有意義なこの分類も、教育への応用という点では、効果的であるとは言いがたい。読者の方からも、「あくまで読む辞書であり、実用的ではない」という感想が寄せられた。

『英語多義ネットワーク辞典』というリソースが、このまま狭い世界で埋もれてしまうのは大変残念であり、上記のポイントを改良し、中学校の教育現場でも利用可能なように再加工することにより、『英語多義ネットワーク辞典』の成果をより広く教育の現場で実用的に活用していくことはできないかと考えた。

2. 研究の目的

『英語多義ネットワーク辞典』は紙媒体のみの辞書であったため、「ネットワーク」とはいいいながらも、各語の意義の展開を視覚的にネットワークとして提示する手段は限られたものだった。よって、本研究の目的は、第一にオンライン辞書として、リメイクすることにより、多義語の意義展開を視覚的によりアクティブなスタイルで提示し、学習者の多義語の理解をより一層深めることと設定した。また第二に、中学生を主なターゲットとするため、認知言語学の知見を活用しながらも、オンライン辞書そのものには、専門用語を使用せず、それ以外の方法で効果的な提示方法を開発することとした。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究の一年目は中学校の英語教科書を細部に至るまで忠実に電子化し、その中で生徒のつまずきの原因となりやすい多義語を精査し絞っていくことに努めた。

また、本研究のメンバーは、一般向け英和中辞典『プログレッシブ英和中辞典第五版』

(2012年 小学館)の編纂・執筆に関わり、長期にわたり蓄積してきたリソースがある。それを中学校の現場で効果的に活用するための提示方法を議論した。具体的には学校英文法と認知文法の違いを明確にし、その溝を埋めるためにどのような情報を多義語の記述に盛り込むべきかを時間をかけて議論し、アニメーションの活用という手法を採用することとなった。

しかしながら、アニメーションを辞書に盛り込むという画期的なアイデアは、費用面で大きな変更をわれわれに余儀なくさせた。その結果、多義語の中でもとくに日本人学習者が不得手とする前置詞に焦点を絞ることとなった。

その後は、前置詞のひとつひとつについて、アニメーションの絵コンテの詳細な内容について議論を重ねると同時に、オンライン辞書サイトの仕様について、中学生に使いやすく、親しみをもってもらえる提示方法について議論を重ね、ひとつひとつ確定させていった。この時期には、復習問題の作成や生徒用と教師用の2パタンのウェブサイト準備することについても決定した。

4. 研究成果

本研究の成果であるオンライン辞書では、前置詞の複数の意味が、それぞれ独立してバラバラに存在しているのではなく、お互いに関連性を持ち、有機的につながっていることをわかりやすく提示し、前置詞に対する学習者の苦手意識を取り除くよう工夫したが、具体的には「意義配列のしかた」と「アニメーションの利用」が、二大特徴である。

完成した辞書の名称を「アニメで学ぶ英語前置詞ネットワーク辞典」とし、下記URLで無償で公開している。

<http://zennet-e.net/> (生徒用)

<http://zennet-e.net/?mode> (教師用)

図1はサイトの大トップのページ、図2はacrossの複数の語義の見取り図である。多くの辞書では意義を使用頻度順に配列するのが一般的だが、この辞典ではもっとも基本的な意義で、意義が展開し広がっていく際の出発点となる意義を最初に提示する。その中心的な意義から、だんだんと意義が広がる様子を順を追って示す。図3はacrossの語義1「<場所>を横切って」のアニメーションの一部をキャプチャーしたものだが、アニメ中の色使いに大きな意味を持たせている。

赤:「地」として背景にあるもの(ランドマーク)

青:「図」として際立つもの(トラジェクター)

緑:前置詞のひとつひとつの意味

この色使いをすべてのアニメで一貫させることによって、専門用語を使用することなく体感的に語義と語義との「つながり」を学ぶことが可能になる。



図 1

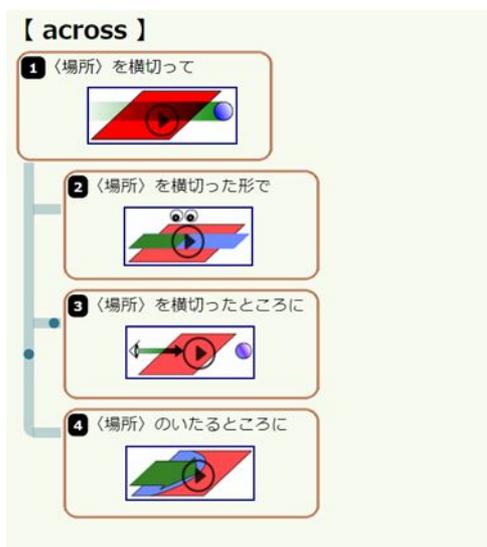


図 2

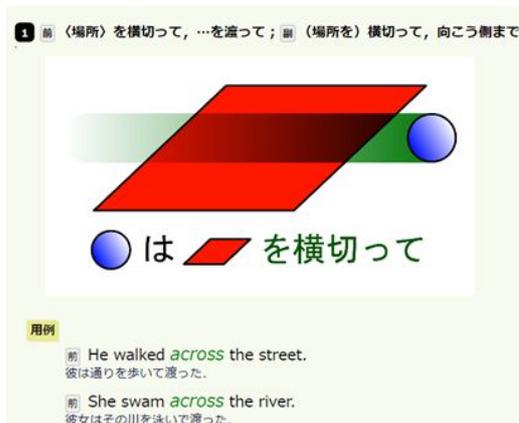


図 3

2017 年に大阪工業大学で行われた「平成 29 年度大阪中学生サマー・セミナー」のひとつ、「アニメで遊ぼう！英語の前置詞」において、

完成前のこの辞典の一部を活用したが、参加した中学生の反応は概ね好評で、そのことはアンケート結果にも反映されていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

瀬戸賢一, 「メトニミー研究を展望する」『認知言語学研究』vol. 2, pp. 79-101, 2017. 査読有.

〔学会発表〕(計 2 件)

「多語(英語)教育におけるアニメーションの活用」, 辻本智子, 日本メディア英語学会 第 124 回西日本地区例会, 2017 年 8 月 30 日, 佛教大学(京都市)

「知られざるメタファーとシミリーの関係」, 瀬戸賢一, 日本メディア英語学会 第 124 回西日本地区例会, 2017 年 8 月 30 日, 佛教大学(京都市)

〔図書〕(計 10 件)

瀬戸賢一, 『認知言語学演習』(全三巻)(他 2 名, 1 番目), 計 501 ページ, 大修館書店, 2017.

②瀬戸賢一, 『時間の言語学』, 205 ページ, 筑摩書房, 2017.

瀬戸賢一, 『よくわかるメタファー』, 321 ページ, 筑摩書房, 2017.

辻本智子, 『世界を読むメディア英語入門 2018』(他 5 名, 5 番目), 133 ページ, 金星堂, 2017.

辻本智子, 『世界を読むメディア英語入門 2017』(他 5 名, 5 番目), 133 ページ, 金星堂, 2016.

辻本智子, 『世界を読むメディア英語入門 2016』(他 5 名, 5 番目), 133 ページ, 金星堂, 2015.

瀬戸賢一, 『大学生のための英語の新マナビーVOL.3 文法ナビ』(他 2 名, 1 番目), 202 ページ, 海鳴社, 2014.

瀬戸賢一, 『大学生のための英語の新マナビーVOL.4 作文・会話ナビ』(他 2 名, 1 番目), 233 ページ, 海鳴社, 2014.

辻本智子, 『エンジニアのための総合英語』(他 5 名, 4 番目), 96 ページ, 三修社, 2014.

辻本智子, 『将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』(他 5 名, 1 番目), 122 ページ, 金星堂, 2014.

〔その他〕

ホームページ等

<http://zennet-e.net/> (生徒用)

<http://zennet-e.net/?mode> (教師用)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻本智子 (TSUJIMOTO, Tomoko)

大阪工業大学・工学部・准教授
研究者番号：30288758

(2)研究分担者

瀬戸賢一 (SETO, Kenichi)
佛教大学・文学部・教授
研究者番号：40154661

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

宮畑一範 (MIYAHATA, Kazunori)
大阪府立大学・人間社会システム科学研究
科・人間社会学部・准教授
研究者番号：20229876